

宛先

# ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 85

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成28(2016)年 6月23日

## 平成28年度 第1回 低平地研究会運営委員会の開催

4月28日(木)の午前10時30分から佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室において、低平地研究会平成28年度運営委員会が開催されました。平成27年度の活動報告、決算に関する説明、平成28年度の活動計画と予算案が議論され、承認されました。昨年度の部会再編成に引き続き、本会議では役員交代が承認され、現在の社会情勢に沿った活動ができるよう、新体制が整えられました。



## 平成27年度低平地研究会活動報告会1 特別講演会の開催

4月28日(木)の13時から、佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室にて特別講演会が開催されました。今年度は、佐賀大学大学院工学系研究科の伊藤幸広教授を講師としてお招きし、「維持管理の時代に向けて」と題してご講演いただきました。

現在、橋梁の老朽化とその対策がインフラの維持管理では大きな課題となっています。講演では国内のインフラ維持管理に関する状況を米国の事例と比較して解説していただきました。佐賀県内にも問題を抱える橋梁が多くあり、今後、維持管理を含むインフラ整備技術には大きな需要があることが示されました。



伊藤幸広教授

## 平成27年度低平地研究会活動報告会2 専門部会からの活動報告

特別講演会ののちにコーヒープレイクをはさみ、専門部会からの活動報告が行われました。冒頭では、荒木運営委員長から運営委員会の内容について会員のみなさまへ報告されました。その後、各専門部会長から平成27年度の活動報告ならびに28年度の活動予定について説明がありました。27年度は部会再編後1年目でしたが、各部会では活発な新しい活動が行われました。本年度も各種活動を実施しますので、会員のみなさまのご参加をお待ちしています。



## 環境専門部会 講演会の開催

5月31日(火)の14時30分から、佐賀大学理工学部6号館2階の多目的セミナー室において講演会を実施しました。講師にはインドから来られた低平地沿岸海域研究センター客員教授の Sanaga Srinivasulu 博士をお招きし、「世界の低平地～インドの低平地における水環境」と題してご講演いただきました。



Sanaga  
Srinivasulu 博士

冒頭ではインドの気候、人口分布、水資源について説明があり、たいへん厳しい状況にある水事情について解説いただきました。インドの低平地では特に、都市化の影響もあり、より高度な水資源管理が必要であることが述べられました。

## 低平地研究に関する豆知識 -その22- 「インドの低平地」

インド亜大陸は5,000 kmにおよぶ海岸線があり、東はベンガル湾、西はアラビア海に面しています。この海岸線には標高が2 m未満の低平地が多く存在し、ボンベイやカルカッタ、コーチンな



どの主要都市が低平地に接続されています。特に、東海岸の低平地周辺ではサイクロンにより、洪水や4 mにも達する高潮が毎年発生しています。この影響は海岸から内陸へ10～15 kmの地点まで達します。西側にあるカッチ大湿地帯では、年間で3～4ヶ月間は海に沈む地域もあります。加えて、沖積河川ではモンスーンの季節になるとほぼ毎年広大な土地で洪水が発生し、その面積は820万ヘクタールにおよび、これは佐賀県の33.5倍の面積に匹敵します。また、ヴィンヤーカーパトナムでは海岸の風化と侵食も大きな問題の一つです。

このように低平地では自然的な要因による被害も発生していますが、都市化に伴う水質環境の劣化や人口過密による水不足も発生しています。特に人口に関わる問題は大きく、インドには日本よりも多いダムがありますが、水が不足しています。これらのことから、インドでは持続可能な社会のためにも、より統制された水資源管理が必要とされています。

(佐賀大学低平地沿岸海域研究センター 客員教授 Sanaga Srinivasulu)



### 低平地研究会 平成28年度活動予定

下記の予定で各専門部会の活動を予定しています。詳細が決まりましたら、事務局からみなさまへお知らせいたします。

#### 【都市空間専門部会】

日時：7月28日(木)～8月3日(水)

内容：環アジア国際セミナー2016

#### 【歴史・文化専門部会】9月開催予定(講演会)

#### 【環境専門部会】10月開催予定(現場見学会)

## 会員 特別会員 動向

国土交通省 武雄河川事務所

国土交通省武雄河川事務所は、平成28年度より、佐賀の土と水を拓き、佐賀の発展の礎となっている「嘉瀬川」の管理を行うことになりました。これにより、六角川、松浦川を含めた佐賀県の代表的な3河川を管理することになり、佐賀県全体の防災体制の強化を図っていきます。また、嘉瀬川ダム、佐賀導水路、城原川ダムに関する業務も武雄河川事務所において行います。引き続き、地域の安全・安心のため、当事務所職員一丸となって取り組んでまいります。



### LT I ジャーナル Vol. 18、No. 1の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol. 18、No. 1が発行され、5編の論文と2編の技術報告が掲載されています。

#### 論文

タイトル	著者
Performance of Ruzi Grass Combined with Woven Limited Life Geotextiles (LLGS) for Soil Erosion Control	S. Arditteang, D.T. Bergado, S. Chaiyaput, T. Tanchaisawat and L.G. Lam
Effect of Boundary Conditions in Segmental Lining Model on its Sectional Force	S. Chaiyaput and M. Sugimoto
A Study on Jobaru River Basin Management by Numerical Simulations of Flooding and Sediment Deposition with Field Survey	K. Ohgushi, H. Nakashima, T. Hino, T. Morita and T. Jansen
Behavior Modes and Attitudes of Hangzhou's Bike-sharing Systems – Expected Utilities, Real Benefits and Perspective	W. W. Sun and X.L. Dai
Landfill Site Selection of Savar Municipality, Bangladesh: A Multi Criteria Evaluation Approach	F. Reza, Dr. A. N. Kakon and Md. Z. Haq

#### 技術報告

タイトル	著者
INFLUENCES OF LONG-TERM TECTONIC AND GEO-CLIMATIC EFFECTS ON GEOTECHNICAL PROBLEMS OF SOFT GROUND - ULAANBAATAR, MONGOLIA	S. Manandhar, T. Hino and K. Kitagawa
Identification of Urban Sprawl – A Case Study of Vijayawada City, Andhra Pradesh, India	P. Kesava Rao, Y. Mishima, S. Srinivasulu and Bhaskara Rao

#### 編集後記

本号をもちまして、ニューズレターの編集委員長を交代いたします。今後ともよろしく願いいたします。

編集：三島(佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp) 森田、江頭